

2026年度 酪農学研究科 修士課程 第2期入学試験問題
(必修： 野生動物学)

【出題の意図】

問 1.

本科目を選択する受験者は、これまで野生動物学や生命環境科学に関連する分野を学んできた者、その他自然科学系の分野を学んだものと想定される。幅広い分野の受験生が、自分の得意分野の研究・分析内容を十分に発揮して小論文が書けるような出題をした。野生動物には、哺乳類や昆虫など幅広い放物種に関連する知識を問うことが必要であるので、今回の出題は、「指定管理鳥獣」または、「希少」についての概要を説明し、その基本的な調査方法や、分布の評価方法について述べる内容とした。

修士課程では論文の執筆、研究の発表などが多く想定されることから、小論文形式の出題とし、基本的な文章作成の技能や論理的思考についても評価を行った。

問 2.

動物と植物を含んだあらゆる生物に共通する自然現象として、進化学の分野から出題している。生態学や行動学、多様性などのマクロ生物学において、地理的に隔てられた野外生物集団を扱う場合には常に考慮に入れるべき現象で、実際に地理的な集団間を比較する際の理論的なバックグラウンドになっている。

ここでは特に捕食圧が地域で異なる例を挙げてそれを研究するための方法を問うており、修士課程において必要となる課題設定能力、問題解決能力、文章による説明力について評価するものである。